

## 序 事例調査概要

### 1. 事例調査のねらい

昨今、育児に関する不安やストレス、子育てと仕事の両立の困難さ等の悩みを抱えながら子育てをしている親が増えている。また、親たちの生活状況が多様化してきていることにより、子育て支援に対するニーズも多様化してきている。その一方で、核家族化の進行や近隣の住民との関係の希薄化から、子育ての悩みを相談できたり、困ったときに手を貸してもらえたりする人や場所を身近で見つけることが難しくなっている。こうした状況に対して、行政による子育て支援のみならず、市民による子育て支援活動の重要性も指摘されてきた。現在各地において、地域の実情に合わせ、市民による様々な子育て支援の取り組みが展開されつつある。

ところで、市民による子育て支援活動では、子育て当事者の個別のニーズに対応していくことの他に、子育て世帯が子どもを安心して産み・育てやすく、そして子どもが育ちやすい環境を地域の中で築くことも必要となってきた。そのためには、現在の支援者と子育て当事者によって行われている子育て支援活動を越えて、様々な世代の人々や異分野で活動している人々も関わった子育て支援活動が求められるであろう。

そこで今回の事例調査では、「つなぐ支援」をテーマとした。これは、地域において多様な人々が子育ての環境づくりにかかわる状態をいかに作り出すことができるのかを、事例をもとに検討していくものである。具体的に言えば、それぞれの支援の場が、子育て中の親子同士あるいは子育て中の親子とその地域に暮らしている様々な立場の人々をつなぐ場として、どのような働きをしているのか。また、地域に住む様々な立場の人々が、子育てや子どもの育ちを地域の課題として捉え、それぞれの地域の特徴に合わせてどのように環境づくりを行っているのか、を探っていこうというものである。

### 2. 調査概要

5つの調査対象を選ぶにあたっては、まず、支援者と子育て当事者以外の人々が子育て支援に関わっており、子育て支援活動を通じて、地域の人々のつながりが改めて築かれているものを基本条件にした。その上で、取り組みの課題性や話題性、先駆的な試みなどを考慮して、5つの小テーマを決めた。それらは、出生率が上昇している地域での子育て支援の取り組み、地域住民による保育園の運営、空き店舗を活用した子育て支援、中高生による子育て支援、ひとり親家庭支援である。そして、小テーマごとに、ひとつの事例を選定した。決定した調査対象は、表1の通りである。

調査では、各団体につき、2～3時間程度の聞き取り調査を実施した。主な質問内容は、地域の概要、団体発足の契機、これまでの子育て支援活動の経緯、活動・運営の実際及び背景などである。なお、聞き取り調査に先立ち、団体概要に関する質問紙調査票を郵送またはE-mailで送り、一部を除き回答してもらっている。また、聞き取り調査には、企画委員が2名と「あしたの日本を創る協会」の事務局員1名が同行し、多角的に情報収集できるように配慮した。

表 1 . インタビュー調査の概要

調査対象（場所）	日時	担当
NPO法人 子育てサポートセンター 「きらきらくらぶ」（福井県敦賀市）	2006年12月14日 13時～16時半	石井・角替・ 峯
社会福祉法人千代しゃくなげ会・千代保育園 （長野県飯田市）	2006年12月13日 11時～15時	丹治・渡辺・ 峯
「まちひとぷら座 かんかこかん」 （岐阜県高山市 安川通り商店街）	2007年1月15日 13時半～16時	遠藤・渡辺・ 峯
片浜地区社会福祉協議会 （静岡県沼津市）	2007年2月16日 13時～17時	遠藤・丹治・ 峯
石神井台児童館 （東京都練馬区）	2007年2月23日 10時～12時	遠藤・相良・ 川越

なお、事例調査では、お忙しいなか、長時間おつきあい頂き、深く感謝致します。この場を借りて、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

### 3 . 報告書の構成

本報告書では、第1部が事例調査をまとめたものであり、第2部が5つの地域で行われたシンポジウム報告からなっている。また、シンポジウム当日に配付された資料も巻末に載せてある。必要に応じて、参照して頂きたい。なお、第1部事例編の執筆分担は、下記の通りである。

- ・石井 久雄：第1章3、子育て支援への提言
- ・角替 弘規：第1章はじめに・1・2及びおわりに
- ・渡辺 恵：序、第3章
- ・遠藤 宏美：第4章
- ・丹治 恭子：第2章
- ・相良 亜希：第5章